



南房総のハズシ

新年度に向けて準備をしよう

～カリキュラム・マネジメントの視点からできること～

学校では、そろそろ新年度に向けて準備を始めているところではないでしょうか？ 今回は、カリキュラム・マネジメントの視点から、新年度に向けてできることを紹介したいと思います。

◇学習指導要領に示すカリキュラム・マネジメントとは

子供たちが『生きる力』を身に付けるためには、『**よりよい学校教育がよりよい社会を創る**』という考えを学校と社会が共有することが大切です。そのために、学校は『**社会に開かれた教育課程**』を目指して、どのように取り組んでいくかを考えることが必要であり、**カリキュラム・マネジメント**はこの取り組み方のことです。

では、カリキュラム・マネジメントについて、学習指導要領にはどのように示されているのか確認してみましょう。

学習指導要領第1章 総則

各学校においては、①児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容を教科等横断的な視点で組織的に組み立てていくこと、②教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、③教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともに、その改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

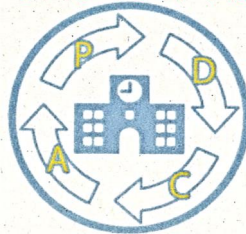
要するに、学校教育目標を実現するために、子どもや地域の実態を踏まえ、教育課程を編成・実施・評価し、改善しながら、教育活動の質を向上させることができるように整備をしましょう、ということです。

また学習指導要領には、「3つの側面」で学校の教育活動の質の向上を図ることが示されています。

- ①教科等横断的な視点での組み立て ②PDCAサイクルの構築 ③人的、物的資源の有効活用



教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる。



学校教育の効果を常に検証して改善する。



地域と連携し、よりよい学校教育を目指す。

(出典 文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm#section8)

※ 教科等横断的な学習の取組については「COMPASS～令和5年度千葉県学力向上通信 vol.8」をご覧ください。

カリキュラム・マネジメントを実施するためには、全教職員が力を合わせて取り組むことが大切です。ここでは、実践の第一歩としてすぐに学校が取り組めることを紹介します。

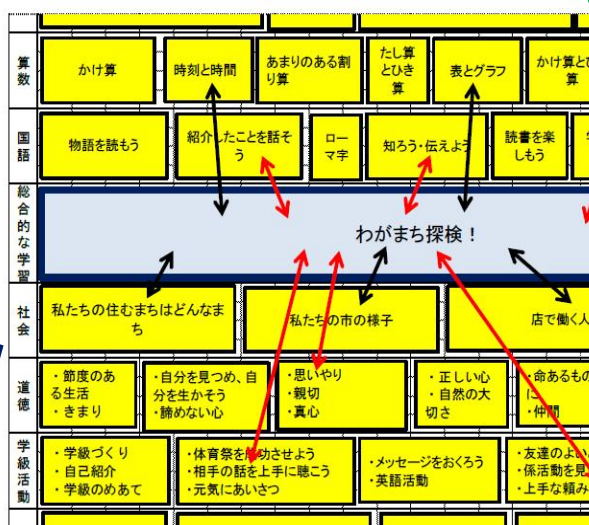
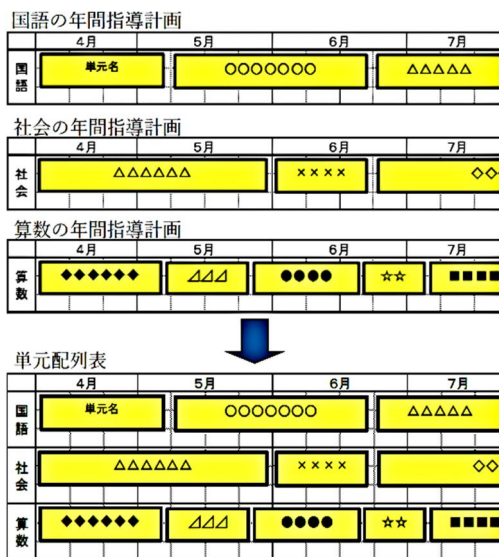
◇新年度に向けて

1. 全教職員で、定期的に学校教育目標や重点目標について「話し合う」

大切なのは、全教職員が学校教育目標を「意識して教育活動を行う」ことです。会議の最後や校内研修などの機会を活用して、学校教育目標や重点目標と教育活動のつながりについて振り返ったり話し合ったりしましょう。1年間を通じて定期的に話し合うことで、次年度への改善点が見つかるかもしれません。この活動こそ3つの側面の1つである②「PDCAサイクルの構築」に当たります。

2. 学習内容全体を俯瞰するために「単元配列表」を作成する

例えば、総合的な学習の時間・生活科の指導計画を軸として作成すると、各教科等の関連が見えるようになり、教科等横断的な学習の見通しが立ちます。年間カリキュラムの実践、評価、改善を進めていくとき、全体を可視化することで、見通しを持った取り組みが期待できます。



小学校は教科書が改訂される今が、作成のチャンスです!

赤い矢印: 資質・能力の関連
黒い矢印: 内容の関連

参考: 「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメント」サポートブック (千葉県総合教育センター)

3. 教科・領域の年間指導計画に学校重点目標との関連を記入する

学校重点目標を定期的に意識するための手立てです。単元ごとに指導計画を立てる際、重点目標との関連を意識できるようにします。

4. 「カリキュラム・マネジメントワークシート」を活用する

週案や記録簿などに添付し、日常的に活用することができます。全教職員の参加意識の向上、進捗状況の把握、カリキュラム・マネジメント力の向上などが期待できます。

総説のWebサイトからダウンロードできます。

参考: 「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメント」サポートブック (千葉県総合教育センター)

資質・能力の育成を目指したカリキュラム・マネジメントワークシート
～学校全体で取り組むことを目指して～

STEP 1 ■ 育成を目指す資質・能力
児童生徒の実態や教師の願い、保護者・地域の要請等を加味して学校として育成すべき資質・能力を設定し、記入します。

STEP 2 ■ 資質・能力を発揮した児童生徒の姿(学校全体として)
STEP1で設定した資質・能力を発揮した児童生徒の具体的な姿を「三つの柱」で整理し、設定し、記入します。
■ 学校全体として 資質・能力を発揮した児童生徒の姿を設定し、それを基に育成グループとして設定する方法や、
■ 始めから育成グループとして 資質・能力を発揮した児童生徒の姿を設定する方法が考えられます。
※例は設定した資質・能力が「コミュニケーション能力」、育成グループが小学校・高学年として設定した場合です。
■ 資質・能力を発揮した児童生徒の姿(育成グループ(例:学年や教科等)として)
例: 友だちの考えを受け入れ、集団としての考えを表現することができる。
目的や集団が明確に伝わるように、話の構成を工夫しながら話すことができる。
相手が分かるように自分の考えを伝えることができる。

STEP 3 ■ 手立て(学校全体・育成グループとして)
「問い」の工夫
思考スキルに応じた思考ツールの活用
リフレクションの設定
設定した資質・能力を育成するための「手立て(授業科等構造的観点)を設定します。
■ 授業改善の観点には、学校や育成グループとして設定した共通の手立てを記入します。
■ その他には、授業以外で講じる「手立て」を記入します。
例は授業が小学校で、設定した資質・能力が「コミュニケーション能力」です。中学校や高等学校であれば、教科や学年で統一した手立てを設定することが考えられます。

「採行」の励行
各行事で「伝え合う活動」を実施